

2017年 東京外国語大学（前期日程）【英語】解答速報

2017年2月25日施行

1 長文論述問題

1.

【解答例1】「期待されていない、普通ではない」という意味。野球で外野のレフトは一塁から最も離れているので、そこに打たれると最長の距離を送球しなければならないことから、このような意味が生じた。（89字）

【解答例2】「思い掛けない」「ただ事ではない」といった意味で用いた。この表現は、野球において一塁からもっとも遠い外野のレフトに飛んだ打球を野手が返すのに最長の距離となることに由来している。（88字）

【解答例3】これは予期されていないという意味で用いられた。この表現は米国文化に根差した野球において、一塁は外野左側から最も遠くに位置するため、予想からかけ離れたことを意味するようになった。（88字）

2.

【解答例1】著者が使用した英国のクリケットに由来する慣用表現が、米国人である講演者には全く理解できなかったから。（50字）

【解答例2】文化的背景の違いから、英国人である著者のイディオム表現を米国人の講演者は理解できなかったから。（47字）

【解答例3】筆者の表現が米国で馴染みのないクリケットに由来するものであり、米国人の話者は理解できなかったから。（49字）

3.

【解答例1】異文化間で理解し難い表現をこれ以上使わないように、慎重に確認しながら話したから。（40字）

【解答例2】文化的要素を多く含んだ表現の使用を避けようとチェックする心理的力が働いたから。（39字）

【解答例3】やり取りの中で文化的に理解されない表現があることに気付き発言に慎重になったため。（40字）

4.

【解答例1】著者に質問された販売員はすぐに答えず、直属の上司、フロア責任者、店舗責任者、書店オーナーの順で質問への感謝と上役への会釈が続き、オーナーが質問に関係ない発言をした後やっと販売員に著者への回答を促した。（100字）

【解答例2】売り場の店員に現時点で一番売れている自著はどれかと尋ねたところ、質問への謝辞に続けて上司に合図した。この経緯は同様に店のオーナーにまで続き、彼も質問自体には答えず、最終的に先の店員に答えるよう促した。(100字)

【解答例3】筆者がセールスアシスタントの男性に質問したが、上司に発言が委ねられ続け、ようやくオーナーが発言したものの、質問とは関係のない内容を述べた上、最初のセールスアシスタントに筆者の質問の回答を求めた。(97語)

5.

【解答例1】質問は、しっかり聴いていなかったこと、または理解力不足を認めるものとみなされ得る上に、話者が不明瞭であったことを示唆するので話者への侮辱と解釈されかねないから。(80字)

【解答例2】聞き手の理解力が足りないことを認めて面目を失うことになるか、もっとひどければ、話の内容が不明瞭の故の質問であるという、話し手に対する侮辱と受け止められるから。(79字)

【解答例3】話を聞いていなかった、または理解できなかったことを自認することになり、自己の体面を傷つけるだけでなく、話が不明瞭であることを暗示し話者に失礼だと解釈されるから。(80字)

6.

【解答例1】親しみを込めファーストネームで呼ぶ方法と正式な肩書を省略せずにつけて呼ぶ方法。(40字)

【解答例2】組織の長や後援者を姓でなく名で呼ぶことと称号や役職名を含めフルネームで呼ぶこと。(40字)

【解答例3】名のみで呼びかける方法と、氏名に加え役職や地位まで全て含めて呼びかける方法。(38字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ① spent ② offered ③ ranging ④ seemed ⑤ written
⑥ undertaking ⑦ analyzing ⑧ inspired ⑨ resulted ⑩ brought

3 長文空所(欠文)補充

- ①カ ②エ ③ウ ④オ ⑤ケ ⑥イ ⑦キ ⑧ク

4 リスニング：省略 作文：省略

5 リスニング：省略

6 リスニング+英

《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。読解部分では、大問[1]が、内容説明問題中心のかなり長い長文読解、大問[2]は、単語レベルの空所補充問題、大問[3]は、センテンス(文)の欠如を補う空所補充問題です。

[1]の内容説明問題は、小問が昨年度の7問から6問に減りましたが、難度や形式の大きな変化はありませんでした。昨年度同様に論旨展開が分かり易く、さらに、比較的狭い文脈の範囲(問われた下線部のほぼ直後)に解答の根拠が見つかる問題がほとんどでした。年度によっては、問われていることに対してかなり広い範囲を見渡さなければいけない出題もあることを考えると、今年度はかなり解答し易い部類であったと言えます。

[2]の空所補充は、11語の単語群から10カ所の空所を補充する問題です。単語群が大学入試としてはすべて基本的な動詞である点、「必要があれば適切な形に変えて…」という指示がある点、ともに例年通りです。難易度も昨年から大きな変化はありませんでした。語形変化の可能性があり、正確な文法的判断が必要な点が難度を上げている要素ですが、「動詞を現在分詞か過去分詞に変化させる」、または「動詞の時制を変化させる」という近年頻出の出題傾向を押さえて、これらを重点的に学習すれば非常に有効な対策となります。

[3]の欠文補充は、9個の選択肢から8カ所の欠如箇所を埋める問題で、これも例年通りです。主に語彙・語法の知識を活用する大問[2]に比べて、[3]はより正確な文脈の把握が必要で、そのため例年いくつか迷う選択肢がありますが、慌てないことが大切です。冷静かつ論理的にしっかりと文脈を追うことを心掛ければ、解答の根拠を必ず見つけることができる良問だと言えます。

[4]と[5]は例年通りリスニング問題ですが、[4]がマルチプルチョイスではなくメモの空欄を埋める語や数字を書かせる問題であったことが近年では新しい形式でした。しかし、本質的に求められている能力の変化はないでしょう。

[6]は[5]年連続で「リスニングと英作文の融合問題」となりましたので、この形式がよいよ定着したと言えます。

トフルゼミナール